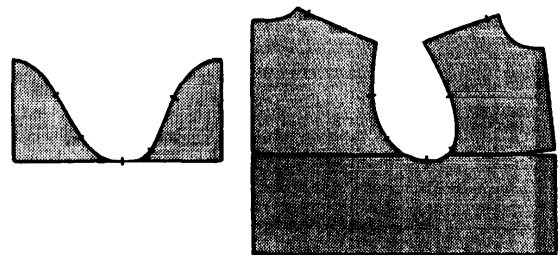
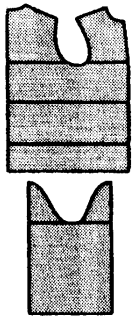
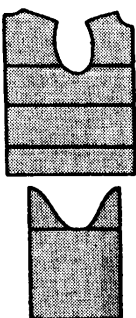
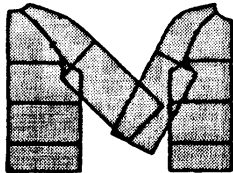
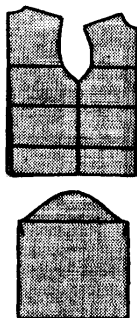
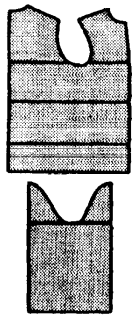
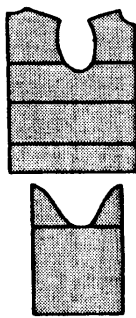
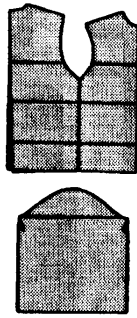
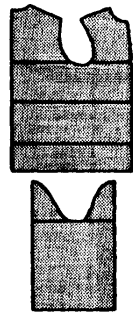


もう少し具体的に検討を進めてみましょう。引き続き絵型や言葉では同一の、あるいは類似したデザインの範疇が多いブレザーを例として考えます。ブランド別に顔が異なる（製品の表情が違う）ということは、縫製仕様や縫製方法での差異を別にすれば、パターン形状そのものの違いとして捕えることができます。つまり、ブランド別の顔を作り分けるパターン形状の変化ということになりますが、パターン形状の変化を具体的に考えると、基本構造における数値的变化と、その基本構造を基にしたシルエット表現の変化及びディテールの変化として考えることができます。

基本構造内での変化要因とは、まずブランドが対象とする体型的差異による数値変化が挙げられますが、次に同一体型を前提としても、デザインとしての分量（量感）表現による数値変化が考えられるでしょう。バスト位置等でのゆりみ分量を、どう設定するか、肩幅や肩パットの厚みと形状を、どう選択し肩のシルエットを決定するか、デザインとしての要件がパターン形状とパターン上の数値を変化させます。従って全く同一の構造内においても、着用者の体型等の寸法とは別の意味で、基本的な寸法が変化することになります。従って、各種構造別に分量変化を加味したスローパーと言う観点を持つことが、特に複数のブランドを同時に担当する場合は重要なことと思えます。

ブランドの対象とする体型上の寸法変化と同時に、デザインとしての量感表現も基本構造段階でのパターン寸法と形状を様々に変化させる。肩傾斜等も体型的変化以上にデザインによる肩パット選定の内容要因に左右される。



構造別バリエーション (必要な構造別種類を選択)				
寸法別バリエーション (同一構造内での寸法の大小を作成)	<p>A 1</p>  <p>肩幅 42cm バスト 102cm パット 2cm</p>	<p>B 1</p> 	<p>C 1</p> 	<p>D 1</p> 
	<p>A 2</p>  <p>肩幅 44cm バスト 108cm パット 2cm</p>	<p>B 2</p> 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>図中Aの形状以外 は例としての寸法 記入を省略。</p> </div>	<p>D 2</p> 
	<p>A 3</p>  <p>肩幅 46cm バスト 114cm パット 1.5cm</p>	<p>ブランドの企画内容を前提に肩パットの厚さ、形状、肩幅の設定から身頃分量等のバリエーションを設けデザイン要件に対応する。</p> <p>但し、集約しすぎると後段階での作業増につながり、構成を広げすぎるとスローパー段階での作業増につながる。如何に効率良く構成できるかがポイント。</p>		

X 構造別分量別シルエットスローパー

次に各種構造別、更に分量別に区分構成されたスローパーに、必要に応じシルエット変化を与えることになるでしょう。

基本構造が平面的構造として分類されるものは、立体的なシルエットを与えることは希ですが、基本構造が元々立体的な物はルーズでストレートなイメージからタイトなボディコンシャスタイプまで、その時々々のファッション傾向や企画の選択内容により様々なシルエットが要望されます。

従って、そのシーズンの企画内容によりより効率的にデザインパターンへの展開を行いやすいよう、必要シルエットの内容を分析構成し、構造別分量別シルエットスローパーとして整備することになります。

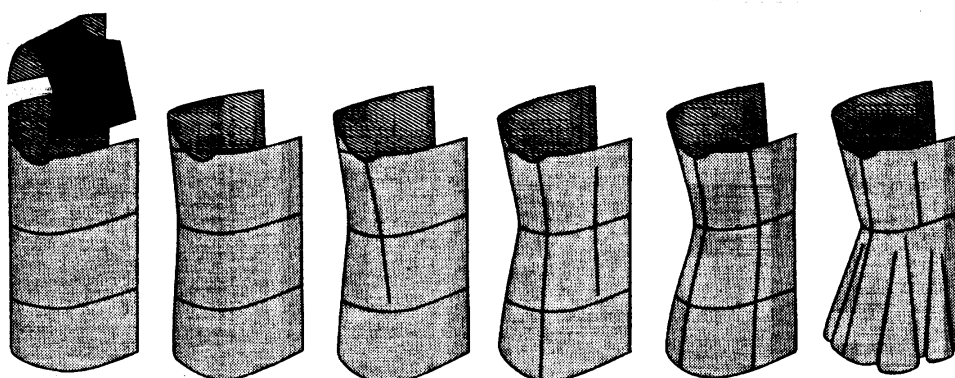
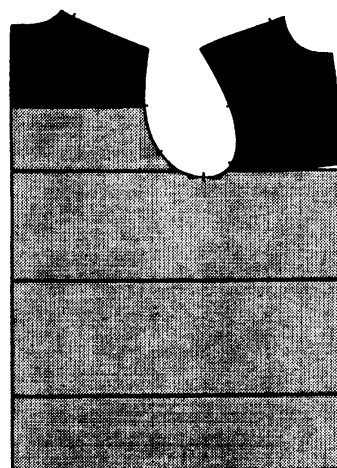
様々な構造別スローパーにおけるシルエット展開を網羅し記載することは、事実上不可能ですし、また、その必要性も無いと判断できますので、定型的なシルエットやデザインが比較的多い、更に圧倒的多数のメーカー、ブランドで作られているブレザータイプのジャケットを例題として、シルエットスローパーの

内容確認を進めていくことにしましょう。

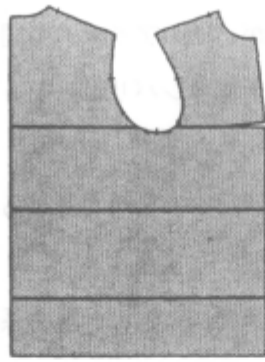
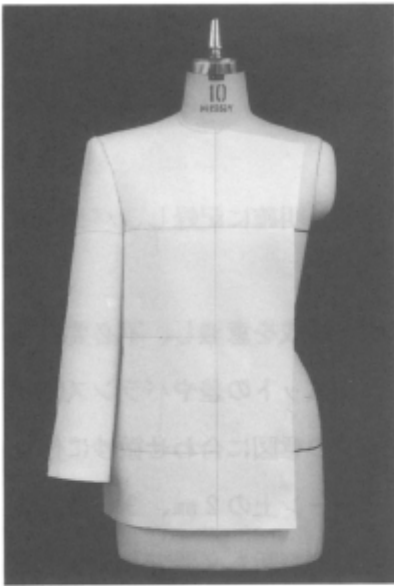
シルエット変化要因はストレートな立体形状に対し、縫い目位置と、縫い目に含まれるダーツ分量によって決定される。

基本的概念としては一つの構造別分量別のストレートな状態に、身頃バストライン下の立体形状をシルエットとして様々に変化させることが可能。

(厳密にはウエストの絞り量の変化により、バストライン上部の形状も連鎖的關係で微妙に変化する)

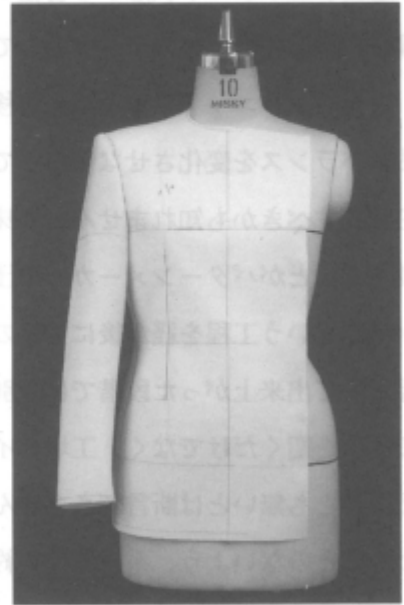


構造別、分量別基本形状に、様々なシルエットを基に企画内容に合わせて、必要なシルエットを構成します。当然、ウエスト寸法変化等によりバストライン上部（主に袖ぐりの形状と寸法）が変化する場合は、身頃形状の変化に併せて袖も微調整を行い、各種シルエットスローパー内にセットしておく必要があるでしょう。



〔シルエットスローパー作成例〕

ストレートな状態のスローパーから別のシルエットを持つスローパーを作成する。



袖ぐり変化を伴う場合は袖原型も身頃に合わせ調整し、各シルエットスローパーにセットする。

